

「あー、もう今年が限界かも」と、幾度となく仕事を辞めようと本気で悩んできました。女性にとって仕事を続けながら結婚・出産をすることは、大きなライフイベントの決断です。

2021年度に国立社会保障・人口問題研究所が実施した「結婚と出産に関する全国調査」によれば、第1子を産んだ全ての妻のうち就業を継続した妻の割合（就業継続者割合）は53・8%で、過去に比べて上昇しています。就労継続できる環境が整いつつあるのは喜ばしいことですが、逆に男性が出産を機に退職することはほとんどありません。まだまだ女性にとっては両立しやすい環境とは言えません。

仕事と育児の両立

私の場合は、第1子が障がいを持っていたため、受け入れてくれる保育園探しに苦労しました。入園できてからは、子どもが病気で休むことが度々あったので、綱渡りをしていくような感覚で子どもの体調を見ている。

一日一題

毎朝でした。

発達を促すための療育を受けさせたり、病院で定期受診をしたりするための時間を確保することも課題でした。就学してからは登校時の付き添い、放課後等デイサービスから帰宅時の受け取りなどがありました。

山陽学園大准教授 上地 玲子

今年、ダウン症のある子どもを育てている母親にインタビュー調査をしたところ、仕事を続けることができていく人は保育所や日中一時支援などの施設を上手に利用し、祖父母から育児支援を得ていることが分かりました。一般的な子育てにおいてはもちろん、障がいのある子どもを育てていく上で理解のある家族の存在と協力がとても重要です。現実にはいろんな事情でそれがかなわない家族もあるでしょう。女性が出産したのちに、育児と仕事を両立させる限界を感じずに、安心して暮らせる環境づくりは大きな課題です。

2023・12・12